様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　６月１３日現在

機関番号：13401
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2010 年度～2012 年度
課題番号：22652049
研究課題名（和文）非漢字系日本語学習者への漢字熟語の意味推測指導のための指導項目収集と整理
研究課題名（英文）Collection of Instruction items Concerning Interpreting Unknown Kanji Compounds for Japanese Learners from non-Kanji culture.

研究代表者
桑原　陽子（KUWABARA YOKO）
福井大学　留学生センター・准教授
研究者番号：30397286

研究成果の概要（和文）：
非漢字系上級日本語学習者を対象とした漢字２字熟語の意味推測調査から，上級学習者の持っている語構成や動詞に関する誤った知識が，正しい意味推測を邪魔することが明らかになった。また，日本人大学生約 50 名を対象とした「意味の透明性」の調査によって，漢字２字熟語 500 語の意味の透明性を示す数値が得られた。この結果と，意味推測調査の結果をあわせると，意味の透明性の高い熟語が必ずしも正しく意味推測できるわけではないことがわかった。

研究成果の概要（英文）：The results of analyzing the process of interpreting unknown Kanji compound shows that learners have their own knowledge concerning word formation of Kanji compound, and this knowledge can have an influence on the cause of failure to interpreting unknown Kanji compounds. Furthermore,

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	400,000	0	400,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1,400,000	300,000	1,700,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・日本語教育
キーワード：非漢字系日本語学習者・漢字熟語・意味推測

１．研究開始当初の背景

(1) 漢字熟語の意味推測関連

英語圏日本語学習者対象の調査から(e.g., Mori, 2003)，次の３点が明らかにされている。①単語要素（漢字）と文脈の情報の適切な統合が意味推測の成功につながる　②文脈を利用して推測する能力と，単語要素のみから意味推測する能力は独立している　③統語的な推測を生む文脈情報と意味的な推測を生む漢字の情報を適切に活用できない

学習者が多い。

しかし，学習者が具体的にどんな方略を用いて意味推測を成功させるのか，意味推測の失敗の原因は何かを詳細に記述し議論した研究は少ない。そのため，具体的な素材を前に，どのような「読み方についての知識」を学習者に与えればよいのかについては不明である。

筆者は，「非漢字圏日本語学習による漢字語の意味の推測過程についての縦断的研究」（萌芽研究　平成 19～21 年度）で，非漢字系学習者の漢字熟語の意味推測過程を観察・記述し，「指導すべき読み方に関する知識」の事例を収集した。効果的な読みの指導のためには，さらに可能な限り具体的な意味推測成功・失敗の事例を収集し，学習者へのインタビューからその要因を明らかにし，整理する必要がある。

(2)　漢字熟語の意味の透明性

意味推測に関わる漢字熟語自体の特性に，漢字熟語を構成する漢字と単語全体の意味の結びつき（意味の透明性）が挙げられる。「月光＝月の光」のように，漢字熟語を構成する漢字から単語の意味を推測できるものもあるが，実際は，漢字の組み合わせから単語の意味を説明するのは困難な場合が多い。

Mori & Nagy (1999)は，漢字熟語について，意味の透明性の高いもの（例：月光）から低いもの (例:皮肉) までを５段階尺度評定し，意味推測調査の材料選定を行っている。これは，調査材料選定のために行われた数名による数値化である。現在のところ，漢字熟語の意味の透明性を調査によって数値化した本格的な研究は見当たらない。例えば，上記の「月光」と「皮肉」の意味の透明性の程度の差を数値で示せれば，使用頻度と並ぶ指導漢字熟語選択の基準の１つになるはずである。

２．研究の目的

本研究の目的は，以下の２つである。

[目的 1] 中級以降の非漢字系日本語学習者を対象に，漢字２字で構成される未習の漢字熟語の意味推測過程を詳しく観察し，漢字熟語の意味推測に必要な知識と方略とを収集する。

[目的 2] ２字の漢字熟語の意味の透明性を，尺度評定法を用いた調査により数値化する。

３．研究の方法

[目的 1]のために：上級日本語学習者に対して，以下の要領で個別インタビュー調査を行った。

(1)　被調査者

非漢字系上級日本語学習者３名である。

・学習者Ａ：日本語学習歴３年。日本語能力試験２級合格。既知漢字数 1000 字以上。
・学習者Ｂ：日本語学習歴５年６ヶ月。既知漢字数 1000 字以上。
・学習者Ｃ：日本語学習歴２年６ヶ月。日本語能力試験２級合格。既知漢字数 1000 字以上。

３名とも，ニュース記事など生の素材を読むのに必要な漢字知識があり，日本語でインタビューが行える会話力がある。

(2)　調査材料

１回の調査で使用する２字漢字熟語は 20 語である。その 20 語ごとに，調査表Ａ，Ｂ，Ｃの３種類の調査表を作成した。

調査表Ａには，２字漢字熟語が 20 語と，それぞれに確信度評定の尺度が記載されている。確信度評定とは，学習者が２字漢字熟語の意味を推測したときに，その正しさにどのぐらい自信があるかについて５段階で評定するものである。

調査表Ｂには，意味の推測をさせたい漢字

熟語を含む文が 20 文と，確信度評定の尺度が記載されている。たとえば，調査表Ａの「私語」「来日」は，調査表Ｂでは，「私語が多い」「来日する」のように書かれている。これらの文は，漢字熟語の品詞の特定に必要最低限の情報しか与えないように作成されている。

調査表Ｃでは，文にさらに情報が追加され，たとえば「私語」は「クラスで学生の私語が多い」となっている。やはりそれぞれに確信度評定の尺度が記載されている。

(3)方法

調査期間は 2011 年 11 月から 2012 年３月までで，１週間に１～２回実施した。１回の調査の概要は以下の通りである。

1）被調査者に調査表Ａを渡し，２字漢字熟語の読み方と意味を書いてもらう。回答は日本語か英語で，書くのが難しい場合は，後で説明する機会があるので無理に書かなくてもよいこととする。
2）推測した意味の正しさについてどのぐらい自信があるか，５段階で評定してもらう。
3）推測された漢字熟語の意味について，どういう意味か，なぜそのように推測したのか，１つ１つ詳しくきく。
4）調査表Ｂを渡し，漢字熟語の意味を推測してもらい，その回答について質問する。調査表Ａと調査表Ｂの回答が異なっている場合は，その理由を詳しく聞く。
5）調査表Ｃを渡し，同様に意味推測をしてもらう。最後に正解を解説し，推測する際何が難しかったのかなどを詳しく聞く。

[目的 2]のために：日本人大学生約 50 名を対象に，漢字２字熟語の意味の透明性について５段階尺度評定法による調査を行い，個々の漢字について評定値の平均値を算出する。

調査の対象は，２字漢字熟語 500 語である。調査用紙を２種類作成して，被調査者にランダムに配布し，１人あたり 500 語の漢字熟語について個々のペースで評定してもらった。

４．研究成果

[目的 1]意味推測方略観察

インタビュー調査から以下のことがわかった。

1）漢字熟語の語構成についての誤った知識が，正しい意味推測を邪魔している。上級学習者に対して，漢字熟語の語構成を整理するための指導を行う必要がある。
2）語構成によっては，漢語動名詞（「する」がついてサ変動詞となる２字漢字熟語。例：実験）であることと結びつきにくく，意味が正しく推測されにくいものがある。
3）「する」がついてサ変動詞になることが，意志動詞であることを過度に学習者に意識させることにより意味の推測が困難になる場合がある。

[目的 2]漢字熟語の意味の透明性調査

(1)　調査材料の選択

意味の透明性を数値化する必要が高い漢字２字熟語を選択するために，以下のような方法で材料の選定を行った。

まず，①から③のデータを統合し 323 語を選定した。

① 非漢字系中上級日本語学習による２字漢字熟語の意味の推測過程調査（e. g.，桑原，2009，2010）で収集された，意味を推測するのが難しい２字漢字熟語（108 語）
② ２字漢字熟語の語構成に関する国語学の研究結果から，語構成が明確な２字漢字熟語 20 語。
③ [目的１]の２字漢字熟語の意味の推測過程調査で使用した２字漢字熟語（300 語）

この 323 語に加えて，国立国語研究所「現

代雑誌200万字言語調査語彙表」から，語種が漢語に分類されている語について，④から⑧の操作をした上で頻度の高い順に177語を選択した。

④ 固有名詞を削除する。（例：読売）

⑤ 同じ漢字が使用され，その漢字の使われ方が似ている場合，代表として１つだけ選択し，それ以外は削除する。たとえば，「以下」「以上」「以外」「以内」「以前」のうち「以下」だけを選択し，あとは削除する。

⑥ 数詞を含むものを削除する。（例：三日）

⑦ 同一の漢字が繰り返されているものを削除する。（例：色色，人人）

⑧ ①から③で選択された323語を削除する。

(2) 意味の透明性の数値化

500語の漢字２字熟語それぞれについて，51名の被調査者の評定値の平均を算出し，それを「意味の透明性」を示す指標とした。最も数値が低かったのは，「風呂　1.82」で，最も数値が高かったのは「父母 4.82」であった。

また，[目的１]で収集した，非漢字系日本語学習者のデータと合わせて分析すると，意味推測の間違いがあった漢字熟語は，透明性の高いものから低いものまで同じように分布していることがわかった。つまり，漢字熟語の意味の透明性が高いからといって，非漢字系日本語学習者がその漢字熟語の意味を正しく推測できるかとは限らないことが示された。（意味の透明性の調査結果とその分析については，現在論文投稿中）

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

① 桑原陽子（2012）「漢字２字熟語の意味推測に及ぼす語構成に関する知識の影響-主要部との関わりから-」『福井大学留学生センター紀要』第７号, 1-10.

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計０件）

６．研究組織
(1)研究代表者

桑原　陽子（KUWABARA YOKO）
福井大学　留学生センター・准教授
研究者番号：30397286